

令和2年度 さいたま市立与野南小学校 自己評価書

校長 鈴木 晴雄



1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

(1) 学校で設定した令和2年度の目標

- ① 新学習指導要領を踏まえた学習指導の充実
・個に応じた指導の充実、タブレット型コンピュータの活用、理数教育の推進
- ② 気持ちの良いあいさつと明るい返事の励行
- ③ SOSの出し方に関する教育（「いのちの支え合い」を学ぶ授業）の推進、教育相談体制の強化
- ④ 学校・家庭・地域社会との連携強化
・保幼小連携と小・中一貫教育の強化、PTA・地域ボランティアとの連携・協力
- ⑤ 安全・安心の管理体制の強化
・早期発見・早期対応、さいたま市学校安心メールの活用、施設・設備の安全管理

(2) 関係する評価項目

- ① 学校では、子どもが分かりやすいように工夫して指導を行っている。
学校では、子どものよさを見つけ、伸ばそうとしている。
- ② 学校や家庭で「おはよう」「ありがとう」などのあいさつのできる子どもに育てている。
- ③ 保護者からの相談や要望に対して、教員は誠実に対応している。
- ④ 学校では、家庭への連絡をきめ細かく行っている。
保護者や地域の方々に学校をよく知っていただくために、学校公開日や授業参観、学校行事が適切に行われている。
- ⑤ 学校では、安全についての指導をよく行っている。
学校では、保健の指導をよく行っている。
学校では、事故防止に努め、施設・設備の安全に配慮している。

2 評価結果について

- ① 「指導の工夫」について保護者の96%が肯定的な回答をしており、「子どものよさ」についても保護者の93%が肯定的な回答をしている。児童の回答では「分かりやすく教えてくれる」が95%、「よさを認められている」が93%と肯定的な回答が多い。
- ② 「あいさつ」について保護者の88%、児童の94%が肯定的な回答をしているが、保護者の中には「あいさつ」について課題があると感じているという意見があった。
- ③ 「相談への対応」について保護者の97%が肯定的な回答をしている。児童の「誰かに相談できる」は86%が肯定的な回答をしている。
- ④ 「家庭への連絡」は93%、「学校行事の適切な実施」は95%の保護者が、肯定的な回答をしている。
- ⑤ 「安全指導」「保健指導」「事故防止」について保護者の96%が肯定的な回答をしている。児童の「安全に生活している」は、95%が肯定的な回答をしている。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・①「指導の工夫」では、少人数指導を一層充実させる。スクールアシスタントとのTT、担任と少人数指導担当で学級や学年を分割した少人数指導を実施し、学ぶ楽しさと同時に分かる喜びを味わえる授業を行う。また、タブレット型コンピュータの活用では、校内研修会を実施し、学年に応じた指導が確実に実施できるようにする。
- ・②「あいさつ」と③「相談への対応」は、引き続き、重点項目として位置付ける。また、安全・安心な学校生活、いじめ・不登校ゼロを目指し、日常の点検、小さな変化を見逃さないきめ細やかな観察や声掛け、保護者との連携を強化する。
- ・④「家庭への連絡」、「学校行事の適切な実施」については、学校HP、学校だより、学年だよりなどを通して学校での取組内容や状況を分かりやすく伝えるとともに、学校安心メールを効果的に活用する。また、学校HPの更新頻度を高める。
- ・⑤「安全指導」「保健指導」「事故防止」については、日常の指導を繰り返し行い、家庭や地域の協力を得て、「自分の身を自分で守る」という意識を高めていく。また、何か起きた時は情報を共有し、「早期発見・早期対応」を組織的に行っていく。

令和2年度 さいたま市立与野南小学校 学校関係者評価書

さいたま市立与野南小学校
学校関係者評価委員長 齋藤 正男



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

9名(学校評議員9名)

(2) 実施回数

3回(6月、11月、2月) ※6月、2月は、文書による報告

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

- ・コロナ禍にあって教職員の皆様のご苦労は大変なことと思います。また、児童にとっては、地域社会の行事が中止となり参加できず残念に思っていることでしょう。コロナの影響によって児童の体力低下が懸念されます。
- ・コロナ禍において様々な制約のある中、子どもたちの教育のためにたくさんの可能性を探り、工夫して、南小ならではの活動をしてくださいました。
- ・例年どおりにいかないことが多くありますが、今後とも情報交換をさせていただきたいと思います。
- ・素朴で純粋、素直で明るく育っているとは思いますが、どうしても「あいさつ」が気になります。大人から「こんにちは」「おはよう」と声を掛けても反応なく、無視をしているような態度をとる子がいます。恥ずかしいのかもしれませんが、あいさつはコミュニケーションの第一歩なので明るく声を掛け合える環境になればよいと思います。今年度の先生方は、しっかり明るくあいさつをし合っていました。今の時代、コミュニケーション力を養う授業も行われるようになりました。与野南小だけではなく、社会全体の問題なのだと思いますが、やはりあいさつが気持ちよくできるとお互いに気分が上がりますね。
- ・今年度は外向きの活動が難しいので苦労が多いと思います。

学校関係者評価を受けた学校の対応

【学校運営全般】

- ・地域や保護者と協力し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に必要な対策を講じながら、安心・安全な学校生活を送っていく。
- ・「笑顔輝く 楽しい学校」の具現化に向け、教職員一同、一致団結して組織的対応をしていく。
- ・いじめ対策として、各種アンケート、いじめに関する授業、心を耕す取組(TV放送による読み聞かせ、説話)、あいさつ運動や異年齢集団活動、生徒指導・教育相談部会(月1回)、ケース会議(校内委員会・関係機関との情報共有)を継続し、早期発見・早期対応をする。児童の小さな変化に気付き、いじめを見逃さないようにし、いじめが起こりにくい環境づくりを整える。
- ・保護者や地域の声に耳を傾け、近隣小学校や与野南中学校との連携を図り、学校運営に当たる。

【学習指導の充実】

- ・授業開始、終了のあいさつ、返事、聴く姿勢等、学習規律の確立を常に意識する。また、机上や掲示物等、学びの場の学習環境を整える。
- ・チーム・ティーチングや少人数指導の機会を充実させ、スクールアシスタントや少人数指導担当と役割分担し、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わえる授業を行う。また、ICT機器を積極的に活用していく。
- ・小・中一貫教育の取組として、週2回の中学校教諭の来校が大変効果的であった。今後も円滑な接続を目指し、連携を深めていく。また、幼稚園・保育園と情報交換を行い、円滑な接続ができるようにする。

【学校生活面での取組】

- ・学校、保護者、地域が連携し、児童が笑顔で元気にあいさつができるよう、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、今後もあいさつ運動を継続する。
- ・日常の観察や声掛け等により児童理解を深める。また、保護者とは電話連絡や面談等により信頼関係を築いていく。担任一人で抱え込まず、SCやSSW、さわやか相談員、関係機関等と積極的に連携する。
- ・全教職員で全校児童を指導し、児童のよさや努力を認め、自己肯定感を高めて主体的な行動を促す。

さいたま市立与野南小学校長

鈴木 晴雄

